

独立行政法人福祉医療機構年度計画（平成27年度）

独立行政法人福祉医療機構は、平成20年10月に策定した経営理念「民間活動応援宣言」に基づき、国の政策効果が最大になるよう、地域の福祉と医療の向上を目指して、お客さまの目線に立ってお客さま満足を追求することにより、福祉と医療の民間活動を応援するため、適切な業務運営に努めることとする。

平成27年度の業務運営について、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第31条第1項の規定に基づき、独立行政法人福祉医療機構年度計画を、次のとおり定める。

平成27年3月31日

平成28年1月20日改正

平成28年2月4日改正

平成28年3月30日改正

独立行政法人福祉医療機構

理事長 中村 裕一

第1 法人全体の業務運営の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

機構において最適なガバナンスの更なる高度化を図るとともに、引き続き、小回りのきく福祉、医療を支援する専門店として、「専門性の向上」を図り、かつ、「業務間の連携強化」により、法人全体の業務運営の更なる改善を推進するための取組みを実施する。

1 効率的かつ効果的な業務運営体制の整備

- (1) 事務・事業の合理化・効率化を図るため、業務の実態を踏まえつつ、業務運営体制の見直しを行う。
- (2) トップマネジメント機能が有効に発揮されるよう、経営企画会議等の効率的かつ効果的な運営に努める。
- (3) 民間活動応援宣言の具体化に向けて、機構の総合力を発揮し、業務間の連携を強化することにより、業務の効率的な運営を図る。

2 業務管理（リスク管理）の充実

- (1) 新たなガバナンス態勢の運用を通じて洗い出されたリスク管理機能に係る課

題を検証するとともに、引き続き、ガバナンス態勢等の充実・強化を図るため、リスクごとの適切な管理及びモニタリングを実施するほか、内部統制強化に資する内部監査機能の強化を図るなど、更なる高度化を推進する。

また、顧客保護及び情報資産の安全確保のため、情報セキュリティ対策の強化を図る。

- (2) 品質マネジメントシステムの継続的な運用を通じ、ガバナンス態勢とあわせ業務上の課題や顧客からのニーズ等を適切に把握のうえ、モニタリングを実施し改善措置等を講じる。

また、リスク管理に重点化した内部監査を実施し、監査結果に基づく改善計画の進捗管理を徹底することにより、事務リスクの抑制を図る。

さらに、業務改革等に向けた職員の自主的な取組みを奨励し、業務改善活動の推進及び更なる活性化に取り組む。

第2 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務・システムの効率化と情報化の推進

- (1) 業務・システム最適化計画を着実に実施し、経費の節減を図る。
- (2) 業務の実施を効率的かつ安定的に支援するため、第3期中期計画期間における情報化推進計画に基づき、システム等の改善を図る。
- (3) 情報化の進展に機動的かつ的確に対応するため、情報システムに精通した人材を育成するための研修プログラムに基づく外部研修を受講する等情報管理担当部署の専門性の向上を図る。
- (4) 業務の特性に応じて、当該業務に必要なITに関する技能の習得を推進するため、情報化統括責任者(CIO)補佐官及び情報管理担当部署等による職員研修等を計画的に実施する。

2 経費の節減

- (1) 質が高く効率的な業務運営を確保し、組織における資源を有効に活用するため、業務方法等を点検し、その改善等を図ることにより、事務の効率化を推進し、経費の節減に努める。
- (2) 契約については、原則として一般競争入札等によるものとし、以下の取組により、契約の適正化を推進する。
- ① 公正かつ透明な調達手続による適切で、迅速かつ効果的な調達を実現する

観点から、機構が策定した「平成27年度独立行政法人福祉医療機構調達等合理化計画」に基づく取組を着実に実施する。

- ② 一般競争入札等により契約を行う場合であっても、特に企画競争や公募を行う場合には、競争性、透明性が十分に確保される方法により実施する。
- ③ 監事及び会計監査人による監査において、入札・契約の適正な実施について徹底的なチェックを受ける。

- (3) 運営費交付金を充当して行う業務においては、運営費交付金の効率的、効果的な使用を徹底することにより、一般管理費及び業務経費（いずれも人件費を除く。）について、経費節減に関する中期計画を達成するよう、更なる経費の削減への取組を行う。

(注) 貸付金に係る振込及び口座振替手数料、福祉医療経営指導事業に係る経費、社会福祉事業に関する調査研究、知識の普及及び研修に係る経費、退職手当共済事業に係る業務委託費及び退職手当給付金支給に係る振込手数料、システム関連経費、公租公課並びに特殊要因を除く。

総人件費については、政府の方針を踏まえ、適切に対応する。

機構の給与水準について、引き続き適正化に向けた取組を進めるとともに、取組状況を公表する。

第3 業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 福祉医療貸付事業（福祉貸付事業）

福祉貸付事業については、国の福祉政策に即して民間の社会福祉施設等の整備に対し長期・固定・低利の資金を提供すること等により、福祉、介護サービスを安定的かつ効率的に提供する基盤整備に資するため、以下の点に特に留意してその適正な実施に努める。

(参考)

区 分	平成27事業年度
貸付契約額	286,500,000千円
資金交付額	286,400,000千円

- (1) 政策優先度に即して効果的かつ効率的な政策融資を行うため、利用者に対し、融資方針の周知等に努め、当該方針に基づき事業を実施する。
- (2) 政策融資の果たすべき役割を踏まえ、地域医療介護総合確保基金を活用した施設整備、耐震化整備、保育所等の整備等に係る資金の需要に迅速かつ機動的に対応する等、民業補完を徹底しつつ、融資対象の重点化及び必要な融資枠の確保、融資条件の改善等により、増大する利用者ニーズへの対応を図る。
特に、東日本大震災からの復旧・復興に資するため、引き続き、災害復旧・

復興資金の優遇融資を実施する。

- (3) 提出書類の電子化などの電子媒体による配布など手続きの簡素化を進めるとともに、事業者に対する積極的な融資内容の周知や個別融資相談を実施し、利用者サービスの向上を図る。

特に個別融資相談においては、円滑な施設運営と利用者サービスの質的向上に資する観点から、計画の早期段階からの確かな融資相談等に応じ、資金調達や償還計画の整合性だけでなく、長期にわたる安定経営が可能となるような多面的かつ専門的な支援・助言を行う。

- (4) これまでの融資や経営診断を通じて得た社会福祉施設に関するノウハウやデータ等を民間金融機関へ積極的に情報提供するとともに、受託金融機関に対する業務研修会を実施し、民間金融機関と協調した融資を推進する。

また、次の取組みを行うことにより、併せ貸しの一層の普及を図る。

- ① 児童福祉事業及び障害者福祉事業について、低調な理由の要因分析の結果に基づき、必要な方策に着手する。
- ② 協調融資金融機関数を拡大するため、民間金融機関が開催するセミナー等において、協調融資制度の周知・広報活動を行う。

- (5) 中期計画に定められた審査業務及び資金交付業務に係る処理期間の順守に努め、利用者サービスの向上を図る。

2 福祉医療貸付事業（医療貸付事業）

医療貸付事業については、国の医療政策に即して民間の医療施設等の整備に対し長期・固定・低利の資金を提供すること等により、医療サービスを安定的かつ効率的に提供する基盤整備に資するため、以下の点に特に留意してその適正な実施に努める。

(参考)

区 分	平成 27 事業年度
貸 付 契 約 額	132, 100, 000 千円
資 金 交 付 額	146, 800, 000 千円

- (1) 医療施設の質的向上と効率化を推進することにより、医療の政策目標の推進に積極的に貢献する。

また、病院への融資については、ガイドラインに基づき、政策優先度に即して効果的かつ効率的な政策融資を実施する。

- (2) 政策融資の果たすべき役割を踏まえ、病院の耐震化整備、地域医療介護総合確保基金を活用した施設整備や、金融環境の変化に伴う経営悪化に対応する経

営安定化資金の需要に迅速かつ機動的に対応する等、民業補完を徹底しつつ、融資対象の重点化及び必要な融資枠の確保、融資条件の改善等により、増大する利用者ニーズへの対応を図る。

特に、東日本大震災からの復旧に資するため、引き続き、災害復旧資金の優遇融資を実施する。

- (3) 提出資料の電子化などの電子媒体による配布など手続きの簡素化を進めるとともに、全国数か所で実施する融資相談会の開催に加え、事業計画検討中の者に対し融資相談に出向くなど、融資相談の充実を図る。

特に個別融資相談においては、円滑な施設経営と施設の機能強化に資する観点から、計画の早期段階からの的確な融資相談に応じ、資金調達や償還計画の整合性だけでなく、長期にわたる安定経営が可能となるような多面的かつ専門的な支援・助言等を行う。

- (4) これまでの融資や経営診断を通じて得た医療関係施設に関するノウハウやデータ等を民間金融機関へ積極的に情報提供するとともに、受託金融機関に対する業務研修会を実施し、民間金融機関と協調した融資を推進する。

また、新たに導入する協調融資制度について、民間金融機関が開催するセミナー等において周知・広報活動を行い、協調融資金融機関数の拡大に努める。

- (5) 中期計画に定められた審査業務及び資金交付業務に係る処理期間の順守に努め、利用者サービスの向上を図る。

また、融資審査においては、病院の機能等や経営状況についての第三者評価結果を引き続き活用する。

3 福祉医療貸付事業（債権管理）

福祉医療貸付事業における債権管理については、政策融資としての役割を踏まえ、地域における社会福祉施設等及び医療施設等の維持及び存続を図ることを最優先とし、貸付債権の適正な管理を行うとともに、リスク管理債権比率の改善に努めつつ、不良債権の処理を促進するため、以下の点に特に留意してその適正な実施に努める。

- (1) 貸付債権の適正な管理

- ① 自己査定を含む貸付全般に係る内部プロセス等について分析・検討を行い、必要に応じて規程・マニュアル等見直すことにより、貸付債権の適正な管理を実施する。
- ② 福祉医療貸付事業の貸付債権について、大口貸付先など継続的に貸付先の事業の状況や財務の状況等を把握するためのフォローアップ調査を実施するとともに、債権区分別に適切な管理を行う。

- ③ 東日本大震災において被災した社会福祉施設や医療施設等の貸付先に対し、引き続き、元利金の返済猶予及び返済条件の変更等を適切に実施する。

(2) 債権悪化の未然防止の取組

- ① 金融機関としての健全性を確保する観点から、リスク管理債権の発生要因等の分析を行い、分析結果を貸付関係部にフィードバックするなど、リスク管理債権に対する態勢の強化を図る。
- ② 平成26年度に策定した抽出基準に基づき選定した今後リスク管理債権化する恐れのある債権については、モニタリングを実施するとともに、必要に応じてフォローアップ調査を実施するなど、福祉医療経営指導事業等との連携強化による債権悪化の未然防止に取り組む。

(3) 経営が悪化した貸付先等への対応

- ① 政策融資の果たすべき役割を踏まえ、経営が悪化あるいは悪化が懸念される貸付先に対して、貸出条件緩和等の措置を講ずることにより、地域における民間の社会福祉施設等及び医療施設等の経営を支援する。
- ② き損する可能性が高い債権の管理の徹底を図るとともに、必要に応じて債権保全措置を的確に実施する。

4 福祉医療経営指導事業

福祉医療経営指導事業（集団経営指導（セミナー）及び個別経営診断）については、民間の社会福祉施設、医療施設の経営者に対し、公的な立場から経営に関わる正確な情報や有益な知識を提供し、あるいは経営状況を的確に診断することにより、福祉、介護、医療サービスを安定的かつ効率的に提供できる施設の経営を支援するため、以下の点に特に留意してその適正な実施に努める。

- (1) 集団経営指導（セミナー）については、受講希望者の受講機会確保とPRに努め、1セミナーあたりの平均受講者数を180人以上とする。

- (2) セミナーについては、民間の社会福祉施設や医療関係施設の適切な経営を支援するため、民間コンサルティング事業者の実施するセミナーの内容と重複せず、機構の独自性を発揮できる施設整備や経営管理に関する優良実践事例や政策動向の情報提供等を中心に内容の充実を図り、受講者にとっての有用度を平均80%以上とする。

また、社会福祉法人の制度改正の方向性を踏まえ、社会福祉法人の経営改革に資するためのセミナーを開催する。

さらに、機構が有する病院等の経営ノウハウを民間金融機関等に普及するため、民間金融機関向けセミナー等を開催する。

(3) 顧客等のニーズを踏まえ施設経営を支援するための情報の収集・分析・提供の充実強化に向け、福祉医療分野における最新の政策動向等を踏まえた調査を実施し、リサーチレポートとして公表する。

また、新たに策定した経営分析プログラム、ガバナンス診断プログラムなどの診断手法によりコンサルティングを実施する。

(4) 個別経営診断については、福祉医療貸付業務や債権管理業務と連携しつつ、経営が悪化あるいは悪化が懸念される施設に対し問題点の解決に重点を置いた診断・支援の手法・内容の充実を図ることを目指し、280件以上の診断件数の実施に努める。

また、個別経営診断の利用者にとっての有用度を平均80%以上とする。

(5) 利用者の利便の向上を図るため、経営分析診断については、申込書の受理から報告書の提示までの平均処理期間を50日以内とする。

(6) 集団経営指導及び個別経営診断の各業務において、運営費交付金の縮減の観点から、適切なサービス・料金体系の設定と受講者等の増加を図ることにより、実費相当経費を上回る自己収入を確保する。

5 社会福祉振興助成事業

社会福祉振興助成事業（以下「助成事業」という。）については、特定非営利活動法人（NPO）等による民間の創意工夫ある活動や地域に密着したきめ細かな活動等に対して、効果的な資金助成を行うことにより、高齢者・障害者が自立した生活を送れるよう、また、子どもたちが健やかに安心して成長できるよう必要な支援等を行うため、以下の点に特に留意してその適正な実施に努める。

(1) 助成事業の募集に当たっては、国が示した社会福祉政策を振興するうえで政策的に必要なテーマについて、事後評価結果等をもとに、国と協議のうえ設定するとともに、募集要領等に明記のうえ、公表するなど広く周知する。

(2) 助成事業の選定については、外部有識者からなる社会福祉振興助成事業審査・評価委員会（以下「審査・評価委員会」という。）において選定方針を策定し、公表するとともに、当該選定方針に基づいて審査し、採択を行うものとする。

なお、選定方針の策定に当たっては、事業の必要性や効果を十分考慮し、助成終了後の継続能力等を重視した審査・選定を行うとともに、特定の団体に対する継続的な助成を回避する観点から、固定化回避の取組みの更なる強化に努める。

(3) 特定非営利活動法人等を育成、支援し、その活動を後押しする観点から、特

別な場合を除き、全助成件数の80%以上が特定非営利活動法人、非営利の任意団体が行う事業であるものとする。

- (4) 平成27年度分の「助成金申請書」の受理から助成決定までの平均処理期間を30日以内とする。
- (5) 審査・評価委員会において、平成27年度における評価すべき重点事項を定めた事後評価方針を策定し、当該方針に基づく事後評価を実施する。
また、事後評価結果については、速やかに公表するとともに、平成28年度分の助成事業の選定方針の改正等に適正に反映する等、継続的な改善を図る。
- (6) 助成効果をできる限り大きくするため、助成先団体等に対して、計画段階から助成後まで継続的な相談・助言に努める。
また、先進的な取り組みを行っている団体との意見交換等を通じて、職員の専門性の向上に努める。
- (7) 助成金の不正受給、不正使用を防ぐため、全助成先を対象に進捗状況を調査し、課題を抱えている団体については、現地訪問の上、課題解決のための相談、助言を行う。
加えて、助成先団体の法令遵守体制の確保のためのガバナンス強化の支援に努める。
- (8) 助成先に対する助言等を通じ、新たに他団体・関係機関等との連携等の効果があった事業を85%以上とする。
- (9) 助成事業の内容を踏まえ、助成事業の利用者に対するアンケート調査を実施し、満足度を80%以上の回答を得る。
- (10) 事後評価結果等を踏まえ、事業効果の高い優れた助成事業や助成事業実施後の事業の波及効果や行政におけるモデル事業化に繋がった事業成果等をホームページ等で広く周知することにより、助成先団体の事業展開を支援する。
- (11) 助成事例等を活かした普及を行うため、助成事業報告会を開催し、参加者の満足度を80%以上とする。

6 退職手当共済事業

退職手当共済事業は、社会福祉施設等を経営する社会福祉法人等の相互扶助の精神に基づき、社会福祉施設等に従事する職員について退職手当共済制度を確立し、もって社会福祉事業の振興に寄与するため、退職手当共済事業の動向を分析

し、制度の安定的な運営を図るとともに、以下の点に留意してその適正な実施に努める。

なお、当該事業における被共済職員数、退職手当支給者数、退職手当金支給額及び単位掛金額を次のとおり見込む。

(参考)

区 分	平成 27 事業年度
4 月 1 日現在の被共済職員数	807,458 人
退職手当金支給者数	76,332 人
退職手当金支給額	101,506,226 千円
単 位 掛 金 額	44,700 円

- (1) 退職手当金支給に係る事務処理の効率化を図ることにより、請求書の受付から給付までの平均処理期間を50日以内とする。
- (2) 利用者の負担軽減に資する手続きの見直しに取り組みつつ、電子届出システムや機構ホームページなどを利用し、社会福祉施設職員等退職手当共済法改正による制度内容及び事務処理について周知・指導する。
また、電子届出システム利用者のニーズを把握するため、アンケート調査を実施し、電子届出システムの更なる改善や操作性の向上を図り、70%以上の利用者から負担が軽減されたとの回答を得る。
- (3) 平成27年度の新規加入法人のうち、当年度に電子届出システムの利用申請を行う割合を50%以上とする。
- (4) 委託業務の見直しを踏まえ、より効果的な窓口相談・届出受理の機能強化を図る。

7 心身障害者扶養保険事業

心身障害者扶養保険事業（以下「扶養保険事業」という。）については、地方公共団体が実施する心身障害者扶養共済制度によって地方公共団体が加入者に対して負う共済責任を保険する事業に関する業務を安定的に行うことにより、心身障害者の保護者の不安を解消し、保護者死亡後の心身障害者の生活安定に寄与することを目的とし、以下の点に特に留意してその適正な実施に努める。

なお、当該事業における新規加入者数その他を次のとおり見込む。

(参考)

区 分	平成 27 事業年度
新 規 加 入 者 数	314 人
新 規 年 金 受 給 者 数	1,990 人

保険対象加入者数	69,088人
年金給付保険金支払対象障害者数	54,629人
死亡・障害保険金額	6,937,100千円
年金給付保険金額	13,170,484千円

(1) 財政状況の検証

平成26年度の決算を踏まえ、心身障害者扶養保険財務状況検討会（以下、「財務状況検討会」という。）で財務状況の検証を行い、検証結果を報告書に取りまとめ、厚生労働省へ報告するとともに、機構ホームページで公表する等関係者に対し広く周知する。

なお、検証の結果、将来的に当該事業の安定的な運営に支障が見込まれる場合には、厚生労働大臣に対しその旨申出を行う。

(2) 扶養保険資金の運用

① 基本的考え方

扶養保険資金の運用については、制度に起因する資金の特性を十分に踏まえ、厚生労働大臣の認可を受けた金銭信託契約に基づき、長期的な観点から安全かつ効率的に行うことにより、将来にわたって扶養保険事業の運営の安定に資することを目的として行うこととし、運用に関する基本方針（長期的に維持すべき資産構成割合（以下「基本ポートフォリオ」という。）を含む。）を、心身障害者扶養保険資産運用委員会（資産運用に精通した外部専門家により構成される組織をいう。以下「資産運用委員会」という。）の議を経た上で策定し、これに基づき適切に管理する。

また、各資産ともパッシブ運用を中心とし、各資産のベンチマーク収益率を確保するよう努める。

② 運用におけるリスク管理

基本ポートフォリオを適切に管理するため、資産全体の資産構成割合と基本ポートフォリオとの乖離状況を少なくとも月1回把握するとともに、必要な措置を講じる。

扶養保険資金について、運用受託機関への委託等により運用を行うとともに、運用受託機関等からの報告等に基づき、資産全体、各資産、運用受託機関等について、以下の方法によりリスク管理を行う。

- ・ 資産全体
資産全体のリスクを確認し、問題がある場合には適切な措置を講じる。
- ・ 各資産
各資産におけるリスク及びトラッキングエラーの状況等を把握し適切に管理する。
- ・ 運用受託機関等
運用受託機関等に対しガイドラインを示し、運用状況及びリスク負担の状況を把握するとともに、信用リスクの管理等を行い、適切に管理す

る。

なお、運用状況については、毎月実績報告を受け、ベンチマーク収益率との乖離状況を把握するとともに、年4回（四半期毎）ヒアリングを実施する。

③ 運用に関する基本方針の見直し

運用に関する基本方針の見直しについて資産運用委員会で検討し、必要があると認められるときは、速やかに見直しを行い、公表する。

④ 基本ポートフォリオの見直し及び年金給付のための流動性の確保

基本ポートフォリオの策定時に想定した運用環境が現実から乖離していないかなどについて、資産運用委員会で検証し、必要に応じて見直しを行う。

また、短期資産において、年金給付等に必要な流動性（現金等）を確保するとともに、効率的な現金管理を行う。

（参考）基本ポートフォリオ及び設定された乖離許容幅

区 分	基本ポートフォリオ	乖離許容幅
国内債券	74.5%	±8%
国内株式	8.5%	±5%
外国債券	8.5%	±5%
外国株式	8.5%	±5%

※上記資産の他、年金給付等に必要な流動性（現金等）を確保した短期資産を別途保有する。

⑤ 扶養保険事業に関する生命保険契約における運用実績等の検証

平成26年度の生命保険会社の決算報告等により各社の運用実績等を把握し、その内容を内部検証するとともに、外部有識者等からなる財務状況検討会において確認等の検証を行う。

（3）事務処理の適切な実施

扶養共済制度を運営する地方公共団体に対する事務担当者会議を開催し、地方公共団体と相互の連携を図るとともに、適切に事務処理を行うための留意事項の徹底等きめ細かに対応する。

また、事務担当者会議の出席者に対するアンケート調査において、回答者の70%以上から満足したとの回答を得る。

8 福祉保健医療情報サービス事業（WAMNET事業）

WAMNET事業については、福祉及び保健医療に関する情報システムの整備及び管理を行い、基幹的な福祉医療情報を重点的に提供していくとともに効率的なシステム運用を行うことを目的とし、以下の点に特に留意してその適正な実施に努める。

（1）基幹的な福祉医療情報を重点的に提供していくとともに、提供する情報の質

の向上に努める。

- (2) 利用者ニーズを踏まえ提供情報及び機能の見直しを行い、年間ヒット件数を7,000万件以上、アンケート調査における情報利用者の満足度指数を90%以上とする。
- (3) 福祉保健医療施策及び機構業務の効率的な実施を推進するため、WAMNETの活用を図る。
- (4) 運営費交付金の縮減の観点から広告収入等の自己収入の拡大に努める。

9 年金担保貸付事業及び労災年金担保貸付事業

年金担保貸付事業については、厚生年金保険制度及び国民年金制度に基づき支給される年金の受給者に対し、労災年金担保貸付事業については、労働者災害補償保険制度に基づき支給される年金の受給者に対し、その受給権を担保にする特例措置として低利で小口の資金を貸し付けることにより、高齢者等の生活の安定を支援することや労災年金受給者の生活を援護することを目的として、以下の点に留意してその適正な事業実施に努める。

(参考)

○年金担保貸付事業

区 分	平成 27 事業年度
貸 付 契 約 額	89,355,718 千円
資 金 交 付 額	89,355,718 千円

○労災年金担保貸付事業

区 分	平成 27 事業年度
貸 付 契 約 額	2,209,808 千円
資 金 交 付 額	2,209,808 千円

- (1) 年金担保貸付事業及び労災年金担保貸付事業を安定的かつ効率的に運営するため、業務運営コストを分析し、その適正化を図り、中期目標期間中において損益が均衡するよう配慮しつつ、貸付金利に反映させる。
- (2) 事業の実施状況等を把握し、国の要請に応じて「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」(平成22年12月7日閣議決定)に基づく国における計画立案に必要な基礎資料の提供を行う。
また、引き続き年金受給者にとって無理のない返済となるように配慮した審査等を行うとともに、返済中に生活困難に陥った者に係る返済条件の緩和を行う。

(3) ホームページ、リーフレット等により、制度の内容について周知するとともに、平成26年12月の制度取扱変更に係る利用者及び関係機関等からの問合せに適切に対応する。

また、引き続き、福祉関係団体、司法関係団体、消費者関係団体等多様な外部団体20団体以上との連携協力による広報活動を展開するとともに、多重債務者等の借入れに関し、注意を促し、専門機関への相談につなげるための情報提供を行う。

(4) 受託金融機関の窓口等における利用者に対し、適切に対応するために、受託金融機関事務打合せ会議等により指導を適切に行う。

10 承継年金住宅融資等債権管理回収業務

承継年金住宅融資等債権管理回収業務については、回収金が国への納付により年金給付の財源となることを踏まえるとともに、当該業務の終了の時期を見据え、以下の点に留意してその適正な業務実施に努める。

(1) 関係行政機関及び受託金融機関と緊密に連携しつつ、貸付先の財務状況等の把握及び分析を行うとともに、適時、担保物件及び保証機関又は保証人の保証履行能力の評価等を行う。

また、受託金融機関事務打合せ会議を開催し、受託金融機関に対する指導を適切に行う。

(2) 年金住宅融資等債権の貸付先について、債権分類を実施し、貸付先の財務状況等を勘案した自己査定を行う。

(3) 転貸債権に係るローン保証会社24社すべてについて、保証履行能力の把握及び分析を行う。

(4) 年金住宅融資等債権について、必要に応じて関係行政機関との協議を行いつつ、担保や保証の状況等に応じて適時的確に債権回収を行うことにより、延滞債権の発生抑制に努める。

破綻した保証会社に代わって金融機関が転貸法人に対して弁済を行う期限が平成29年度に到来することを踏まえ、新たに策定した期限終了以降の基本方針等に基づき、関係者と以後の対応を協議する。

また、経済情勢の変化に伴うローン返済困窮者及び災害の被災者等に対して、迅速かつ的確に必要な返済条件の変更措置を講ずる。

(5) 転貸法人等に対して、国と連携して実情等を把握するとともに必要な助言等を行い、転貸法人等による適切な債権回収を促進させる。

早期対応が必要な転貸法人等に対しては、状況に応じて法人の合併、事業譲渡、債権譲渡等による処理方策を策定させ、適切な債権回収に努める。

また、必要に応じて転貸法人に債権管理回収に係る専門員を派遣するとともに、年1回以上専門員の打合せを行い、転貸法人の債権管理に関する指導を適切に行う。

(6) 短期延滞債権については、転貸法人等に対し、迅速かつ着実な督促等を実施するよう徹底する。

また、長期延滞債権については、保証機関又は保証人に対する保証履行請求及び担保物件の処分等を適切に行うことにより、一層の早期債権回収に努める。

第4 予算、収支計画及び資金計画

1 予算

別表1-1～1-4のとおり

2 収支計画

別表2-1～2-4のとおり

3 資金計画

別表3-1～3-4のとおり

第5 短期借入金の限度額

1 限度額

117,400百万円

2 想定される理由

- (1) 運営費交付金の受入れの遅延等による資金不足に対応するため。
- (2) 一般勘定において、貸付原資の調達遅延等による貸付金の資金不足に対応するため。
- (3) 年金担保貸付勘定及び労災年金担保貸付勘定において、貸付原資に充当するため。
- (4) 共済勘定において、退職者の増加等による給付費の資金不足に対応するため。
- (5) 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費に対応するため。

第6 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画

中期計画に定めた計画に基づき、平成27年度以降に国庫納付する宿舎について、土地境界確定測量、不動産鑑定評価等、売却手続きを進め、売却が

完了次第、順次金銭納付を行う。

第7 第6の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

なし

第8 剰余金の使途

- ・ 全勘定に共通する事項
業務改善にかかる支出のための原資
職員の資質向上のための研修等の財源

第9 その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 職員の人事に関する計画

(1) 方針

- ① 効率的かつ効果的な業務運営を行うため、業務の実情に即した、より適正な組織編成及び人員配置を行うとともに、組織の活性化に向けた取組を進める。
- ② 人事評価制度を引き続き適正に実施し、人事や給与への反映等の取組を進める。
- ③ 担当業務に必要な知識・技術の習得、能力開発等を目的とした、より効果的な研修を実施する。

また、専門性を磨き、民間活動への支援の質を高めるため、若手職員の育成を目的とした福祉医療分野に関する専門研修や金融業務機能の強化のための研修を実施するとともに、民間金融機関等への研修派遣を行う。

(2) 人員に係る指標

平成27年度末の常勤職員数を期初の100%以内とする。

2 施設及び設備に関する計画

なし

3 積立金の処分にに関する事項

前期中期目標期間からの繰越積立金は、独立行政法人福祉医療機構法第12条第1項に定める業務の財源に充てることとする。

予算
平成27年度予算

別表1-1

(単位:百万円)

区 別	金 額								
	一般勘定	共済勘定	保険勘定	年金担保貸付	労災年金担保貸付	承継債権管理回収	管 理	承継教育資金貸付けあつせん勘定	計
収入									
運営費交付金	3,408	668	105						4,181
国庫補助金	703	26,240							26,942
社会福祉振興助成費補助金	703								703
給付費補助金		26,240							26,240
利子補給金	5,303								5,303
福祉医療貸付事業収入									
福祉医療貸付金利息	46,715								46,715
経営指導事業収入	39								39
福祉保健医療情報サービス事業収入	5								5
退職手当共済事業収入		77,425							77,425
掛金		52,319							52,319
都道府県補助金		25,085							25,085
退職手当給付費支払資金戻入		1							1
給付費支払資金運用等収入		19							19
心身障害者扶養保険事業収入			32,516						32,516
保険料収入			7,446						7,446
保険金			11,537						11,537
特別給付金			75						75
弔慰金			0						0
信託運用収入			288						288
扶養保険資金戻入			13,170						13,170
年金担保貸付事業収入									
年金担保貸付金利息				2,075					2,075
労災年金担保貸付事業収入									
労災年金担保貸付金利息						29			29
承継債権管理回収業務収入							33,267		33,267
承継債権貸付金利息							33,265		33,265
手数料収入							1		1
利息収入	10				1		159		172
雑収入	7	1	0		2		2		12
計	56,190	104,333	32,622	2,078	30	33,428			228,681
支出									
福祉医療貸付事業費	52,077								52,077
支払利息	51,951								51,951
業務委託費	51								51
債券発行諸費	74								74
東日本大震災復興福祉医療貸付事業費									
支払利息	187								187
社会福祉振興助成金	703								703
退職手当共済事業費		104,818							104,818
退職手当給付金		101,506							101,506
退職手当給付費支払資金繰入		3,312							3,312
心身障害者扶養保険事業費			32,516						32,516
支払保険料			7,446						7,446
年金給付保険金			13,170						13,170
弔慰金給付保険金			75						75
特別弔慰金給付金			0						0
扶養保険資金繰入			11,825						11,825
年金担保貸付事業費									
支払利息				1,862					1,862
業務委託費				227					227
債券発行諸費				1,562					1,562
労災年金担保貸付事業費									
業務委託費						26			26
業務経費	1,509	430	19	59		2	1,903		3,921
福祉医療貸付業務経費	449								449
経営指導業務経費	102								102
福祉保健医療情報サービス業務経費	899								899
社会福祉振興助成業務経費	59								59
退職手当共済業務経費		430							430
心身障害者扶養保険業務経費			19						19
年金担保貸付業務経費				59					59
労災年金担保貸付業務経費						2			2
承継債権管理回収業務経費							1,903		1,903
一般管理費	236	25	11	19	1		60		351
人件費	1,921	213	76	175	4		271		2,660
計	56,632	105,486	32,622	2,115	32	2,233			199,121

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは合致しないものがある。

予算
平成27年度予算

別表1-2

(単位:百万円)

区 別	金 額					
	一 般 勘 定					
	福 祉 医 療 貸 付 事 業	福 祉 医 療 経 営 指 導 事 業	福 祉 保 健 医 療 情 報 サ ー ビ ス 事 業	社 会 福 祉 振 興 助 成 事 業	共 通	計
収入						
運営費交付金	1,178	211	935	195	889	3,408
国庫補助金						
社会福祉振興助成費補助金				703		703
利子補給金	5,303					5,303
福祉医療貸付事業収入						
福祉医療貸付金利息	46,715					46,715
経営指導事業収入		39				39
福祉保健医療情報サービス事業収入			5			5
利息収入	10					10
雑収入	3	1	0	1	2	7
計	53,209	251	940	898	892	56,190
支出						
福祉医療貸付事業費	52,077					52,077
支払利息	51,951					51,951
業務委託費	51					51
債券発行諸費	74					74
東日本大震災復興福祉医療貸付事業費						
支払利息	187					187
社会福祉振興助成金				703		703
業務経費	449	102	899	59		1,509
福祉医療貸付業務経費	449					449
経営指導業務経費		102				102
福祉保健医療情報サービス業務経費			899			899
社会福祉振興助成業務経費				59		59
一般管理費					236	236
人件費	938	149	41	137	656	1,921
計	53,651	251	940	898	892	56,632

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは合致しないものがある。

予算
平成27年度予算

別表1-3

(単位:百万円)

区 別	金 額		
	共 済 勘 定		
	業 務 経 理	給 付 経 理	計
収入			
運営費交付金	668		668
国庫補助金			
給付費補助金		26,240	26,240
退職手当共済事業収入		77,425	77,425
掛金		52,319	52,319
都道府県補助金		25,085	25,085
退職手当給付費支払資金戻入		1	1
給付費支払資金運用等収入		19	19
雑収入	1		1
計	668	103,665	104,333
支出			
退職手当共済事業費		104,818	104,818
退職手当給付金		101,506	101,506
退職手当給付費支払資金繰入		3,312	3,312
業務経費			
退職手当共済業務経費	430		430
一般管理費	25		25
人件費	213		213
計	668	104,818	105,486

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

予算
平成27年度予算

別表1-4

(単位:百万円)

区 別	金 額		
	保 険 勘 定		
	業 務 経 理	給 付 経 理	計
収入			
運営費交付金	105		105
心身障害者扶養保険事業収入		32,516	32,516
保険料収入		7,446	7,446
保険金		11,537	11,537
特別給付金		75	75
弔慰金		0	0
信託運用収入		288	288
扶養保険資金戻入		13,170	13,170
雑収入	0		0
計	106	32,516	32,622
支出			
心身障害者扶養保険事業費		32,516	32,516
支払保険料		7,446	7,446
年金給付保険金		13,170	13,170
弔慰金給付保険金		75	75
特別弔慰金給付金		0	0
扶養保険資金繰入		11,825	11,825
業務経費			
心身障害者扶養保険業務経費	19		19
一般管理費	11		11
人件費	76		76
計	106	32,516	32,622

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

収支計画
平成27年度収支計画

別表2-1

(単位:百万円)

区 別	金 額								計
	一 般 勘 定	共 済 勘 定	保 険 勘 定	年 金 担 保 付 勘 定	労 災 年 金 担 保 付 勘 定	承 継 債 権 管 理 回 収 勘 定	承 継 債 権 管 理 回 収 勘 定	承 継 債 権 管 理 回 収 勘 定	
費用の部	57,678	105,506	20,797	2,154	35	2,269			188,441
経常費用	57,678	102,195	20,797	2,154	35	2,269			185,129
福祉医療貸付業務費	53,621								53,621
借入金利息	48,569								48,569
債券利息	3,953								3,953
債券発行諸費	74								74
業務委託費	50								50
福祉医療貸付業務経費	449								449
貸倒引当金繰入	525								525
経営指導業務費									
経営指導業務経費	102								102
福祉保健医療情報サービス業務費									
福祉保健医療情報サービス業務経費	899								899
社会福祉振興助成業務費	762								762
社会福祉振興助成費	703								703
社会福祉振興助成業務経費	59								59
退職手当共済業務費		101,937							101,937
退職手当給付金		101,506							101,506
退職手当共済業務経費		430							430
心身障害者扶養保険業務費			20,710						20,710
支払保険料			7,446						7,446
給付金			13,245						13,245
心身障害者扶養保険業務経費			19						19
年金担保貸付業務費				1,949					1,949
借入金利息				40					40
債券利息				198					198
債券発行諸費				72					72
業務委託費				1,566					1,566
年金担保貸付業務経費				59					59
貸倒引当金繰入				13					13
労災年金担保貸付業務費					30				30
業務委託費					26				26
労災年金担保貸付業務経費					2				2
貸倒引当金繰入					2				2
承継債権管理回収業務費									
承継債権管理回収業務経費						1,903			1,903
一般管理費	236	25	11	19	1	60			351
減価償却費	143	21	1	12	0	37			213
人件費	1,914	212	76	175	4	270			2,651
雑損	2								2
臨時損失									
退職手当給付費支払資金繰入		3,312							3,312
収益の部	56,334	105,506	21,840	2,154	35	33,779			219,649
運営費交付金収益	3,408	668	105						4,181
福祉医療貸付事業収入	46,722								46,722
経営指導事業収入	39								39
福祉保健医療情報サービス事業収入	5								5
退職手当共済事業収入		52,338							52,338
掛金		52,319							52,319
給付費支払資金運用等収入		19							19
心身障害者扶養保険事業収入			20,994						20,994
受取保険料			7,446						7,446
保険金			11,612						11,612
金銭の信託運用益			1,936						1,936
年金担保貸付事業収入				2,063					2,063
労災年金担保貸付事業収入					29				29
承継債権管理回収業務収入						33,102			33,102
年金住宅資金等貸付金利息						33,100			33,100
手数料収入						1			1
補助金等収益	6,006	51,165							57,171
国庫補助金収益		26,240							26,240
都道府県補助金収益		24,925							24,925
社会福祉振興助成費補助金収益	703								703
利子補給金収益	5,303								5,303
財源措置予定額収益		1,313							1,313
資産見返運営費交付金戻入	143	21	1	0	0	1			165
財務収益									
受取利息	10			1	1	105			118
雑益	1	0	0	1	0	1			3
臨時利益		1	740			570			1,311
貸倒引当金戻入益						570			570
退職手当給付費支払資金戻入益		1							1
心身障害者扶養保険責任準備金戻入益			740						740
前中期目標期間繰越積立金取崩額				88	5				93
総利益又は総損失(△)	△ 1,344	-	1,043	-	-	31,509			31,208

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入にしているので、端数において合計とは合致しないものがある。

収支計画
平成27年度収支計画

別表2-2

(単位:百万円)

区 別	金 額						計
	一 般 勘 定						
	福 社 医 療 貸 付 事 業	福 社 医 療 經 営 指 導 事 業	福 社 保 健 医 療 情 報 サ ー ビ ス 事 業	社 会 福 祉 振 興 助 成 事 業	共 通		
費用の部	54,609	256	1,015	900	897	57,678	
經常費用	54,609	256	1,015	900	897	57,678	
福祉医療貸付業務費	53,621					53,621	
借入金利息	48,569					48,569	
債券利息	3,953					3,953	
債券発行諸費	74					74	
業務委託費	50					50	
福祉医療貸付業務経費	449					449	
貸倒引当金繰入	525					525	
経営指導業務費							
経営指導業務経費		102				102	
福祉保健医療情報サービス業務費							
福祉保健医療情報サービス業務経費			899			899	
社会福祉振興助成業務費				762		762	
社会福祉振興助成費				703		703	
社会福祉振興助成業務経費				59		59	
一般管理費					236	236	
減価償却費	53	6	75	2	6	143	
人件費	934	149	41	136	654	1,914	
雑損	1	0	0	0	1	2	
収益の部	53,266	256	1,015	900	896	56,334	
運営費交付金収益	1,178	211	935	195	889	3,408	
福祉医療貸付事業収入	46,722					46,722	
経営指導事業収入		39				39	
福祉保健医療情報サービス事業収入			5			5	
補助金等収益	5,303			703		6,006	
社会福祉振興助成費補助金収益				703		703	
利子補給金収益	5,303					5,303	
資産見返運営費交付金戻入	53	6	75	2	6	143	
財務収益							
受取利息	10					10	
雑益					1	1	
総利益又は総損失(△)	△ 1,343	△ 0	△ 0	△ 0	△ 1	△ 1,344	

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

収支計画
平成27年度収支計画

別表2-3

(単位:百万円)

区 別	金 額		
	共 済 勘 定		
	業 務 経 理	給 付 経 理	計
費用の部	688	104,818	105,506
經常費用	688	101,506	102,195
退職手当共済業務費	430	101,506	101,937
退職手当給付金		101,506	101,506
退職手当共済業務経費	430		430
一般管理費	25		25
減価償却費	21		21
人件費	212		212
臨時損失			
退職手当給付費支払資金繰入		3,312	3,312
収益の部	688	104,818	105,506
運営費交付金収益	668		668
退職手当共済事業収入		52,338	52,338
掛金		52,319	52,319
給付費支払資金運用等収入		19	19
補助金等収益		51,165	51,165
国庫補助金収益		26,240	26,240
都道府県補助金収益		24,925	24,925
財源措置予定額収益		1,313	1,313
資産見返運営費交付金戻入	21		21
雑益	0		0
臨時利益			
退職手当給付費支払資金戻入益		1	1
総利益又は総損失(△)	-	-	-

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

収支計画
平成27年度収支計画

別表2-4

(単位:百万円)

区 別	金 額		
	保 険 勘 定		
	業 務 経 理	給 付 経 理	計
費用の部	106	20,691	20,797
經常費用	106	20,691	20,797
心身障害者扶養保険業務費	19	20,691	20,710
支払保険料		7,446	7,446
給付金		13,245	13,245
心身障害者扶養保険業務経費	19		19
一般管理費	11		11
減価償却費	1		1
人件費	76		76
収益の部	106	21,734	21,840
運営費交付金収益	105		105
心身障害者扶養保険事業収入		20,994	20,994
受取保険料		7,446	7,446
保険金		11,612	11,612
金銭の信託運用益		1,936	1,936
資産見返運営費交付金戻入	1		1
雑益	0		0
臨時利益			
心身障害者扶養保険責任準備金戻入益		740	740
総利益又は総損失(△)	-	1,043	1,043

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

資金計画
平成27年度資金計画

別表3-1

(単位:百万円)

区 別	金 額							計
	一 般 勘 定	共 済 勘 定	保 険 勘 定	年 金 担 保 貸 付 勘 定	労 災 年 金 担 保 貸 付 勘 定	承 継 債 権 管 理 回 収 勘 定	承 継 教 育 資 金 貸 付 勘 定	
資金支出	1,543,761	891,969	32,678	337,677	45,611	324,300		3,175,997
業務活動による支出	489,834	102,175	20,797	91,471	2,242	176,677		883,195
福祉医療貸付事業費	52,264							52,264
福祉医療貸付金による支出	433,200							433,200
社会福祉振興助成金による支出	703							703
退職手当共済事業費		101,506						101,506
心身障害者扶養保険事業費			20,691					20,691
年金担保貸付事業費				1,862				1,862
年金担保貸付金による支出				89,356				89,356
労災年金担保貸付事業費					26			26
労災年金担保貸付金による支出					2,210			2,210
人件費支出	1,921	213	76	175	4	271		2,660
経営指導業務費	102							102
その他の業務支出	1,645	455	29	78	3	2,028		4,238
国庫納付金の支払額						174,378		174,378
投資活動による支出	715,000	788,900	11,825	48,500	43,200	147,300		1,754,725
金銭の信託の増加による支出			11,825					11,825
有価証券の取得による支出	715,000	787,300		48,500	43,200	147,300		1,741,300
買現先の増加による支出		1,600						1,600
財務活動による支出	337,632			197,500				535,132
長期借入金の返済による支出	268,632			29,800				298,432
短期借入金の返済による支出				137,700				137,700
債券の償還による支出	69,000			30,000				99,000
翌年度への繰越金	1,295	895	57	206	169	323		2,945
資金収入	1,543,761	891,969	32,678	337,677	45,611	324,300		3,175,997
業務活動による収入	346,599	104,332	19,451	105,226	2,509	145,936		724,053
福祉医療貸付事業収入	46,715							46,715
福祉医療貸付回収金による収入	290,409							290,409
経営指導事業収入	39							39
福祉保健医療情報サービス事業収入	5							5
退職手当共済事業収入		52,338						52,338
心身障害者扶養保険事業収入			19,345					19,345
年金担保貸付事業収入				2,075				2,075
年金担保貸付回収金による収入				103,148				103,148
労災年金担保貸付事業収入					29			29
労災年金担保貸付回収金による収入					2,479			2,479
承継債権管理回収業務収入						33,267		33,267
承継融資業務収入						112,508		112,508
運営費交付金収入	3,408	668	105					4,181
補助金等収入	6,006	51,325						57,331
その他の業務収入	17	1	0	3	1	162		185
投資活動による収入	715,000	787,000	13,170	48,500	43,000	178,100		1,784,770
定期預金の払戻による収入						68,100		68,100
金銭の信託の減少による収入			13,170					13,170
有価証券の償還による収入	715,000	785,400		48,500	43,000	110,000		1,701,900
買現先の減少による収入		1,600						1,600
財務活動による収入	480,800			183,700				664,500
長期借入れによる収入	460,800			12,000				472,800
短期借入れによる収入				137,700				137,700
債券の発行による収入	20,000			34,000				54,000
前年度よりの繰越金	1,362	638	57	251	102	264		2,673

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入にしているので、端数において合計とは合致しないものがある。

資金計画
平成27年度資金計画

別表3-2

(単位:百万円)

区 別	金 額						計
	一 般 勘 定						
	福 祉 医 療 貸 付 事 業	福 祉 医 療 經 営 指 導 事 業	福 祉 保 健 医 療 情 報 サ ー ビ ス 事 業	社 会 福 祉 振 興 助 成 事 業	共 通		
資金支出	1,539,484	251	940	898	2,188	1,543,761	
業務活動による支出	486,852	251	940	898	893	489,834	
福祉医療貸付事業費	52,264					52,264	
福祉医療貸付金による支出	433,200					433,200	
社会福祉振興助成金による支出				703		703	
人件費支出	938	149	41	137	656	1,921	
経営指導業務費		102				102	
その他の業務支出	450	0	899	59	237	1,645	
投資活動による支出							
有価証券の取得による支出	715,000					715,000	
財務活動による支出	337,632					337,632	
長期借入金の返済による支出	268,632					268,632	
債券の償還による支出	69,000					69,000	
翌年度への繰越金					1,295	1,295	
資金収入	1,539,418	251	940	898	2,254	1,543,761	
業務活動による収入	343,618	251	940	898	892	346,599	
福祉医療貸付事業収入	46,715					46,715	
福祉医療貸付回収金による収入	290,409					290,409	
経営指導事業収入		39				39	
福祉保健医療情報サービス事業収入			5			5	
運営費交付金収入	1,178	211	935	195	889	3,408	
補助金等収入	5,303			703		6,006	
その他の業務収入	14	1	0	1	2	17	
投資活動による収入							
有価証券の償還による収入	715,000					715,000	
財務活動による収入	480,800					480,800	
長期借入れによる収入	460,800					460,800	
債券の発行による収入	20,000					20,000	
前年度よりの繰越金					1,362	1,362	

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

資金計画
平成27年度資金計画

別表3-3

(単位:百万円)

区 別	金 額		
	共 済 勘 定		
	業 務 経 理	給 付 経 理	計
資金支出	791	891,178	891,969
業務活動による支出	668	101,506	102,175
退職手当共済事業費		101,506	101,506
人件費支出	213		213
その他の業務支出	455		455
投資活動による支出		788,900	788,900
有価証券の取得による支出		787,300	787,300
買現先の増加による支出		1,600	1,600
翌年度への繰越金	122	772	895
資金収入	791	891,178	891,969
業務活動による収入	668	103,663	104,332
退職手当共済事業収入		52,338	52,338
運営費交付金収入	668		668
補助金等収入		51,325	51,325
その他の業務収入	1		1
投資活動による収入		787,000	787,000
有価証券の償還による収入		785,400	785,400
買現先の減少による収入		1,600	1,600
前年度よりの繰越金	122	515	638

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

資金計画
平成27年度資金計画

別表3-4

(単位:百万円)

区 別	金 額		
	保 険 勘 定		
	業 務 経 理	給 付 経 理	計
資金支出	162	32,516	32,678
業務活動による支出	106	20,691	20,797
心身障害者扶養保険事業費		20,691	20,691
人件費支出	76		76
その他の業務支出	29		29
投資活動による支出			
金銭の信託の増加による支出		11,825	11,825
翌年度への繰越金	57		57
資金収入	162	32,516	32,678
業務活動による収入	106	19,345	19,451
心身障害者扶養保険事業収入		19,345	19,345
運営費交付金収入	105		105
その他の業務収入	0		0
投資活動による収入			
金銭の信託の減少による収入		13,170	13,170
前年度よりの繰越金	57		57

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。